

# マイ・タイムライン作成を通した 逃げ遅れゼロへの挑戦

矢代 優衣

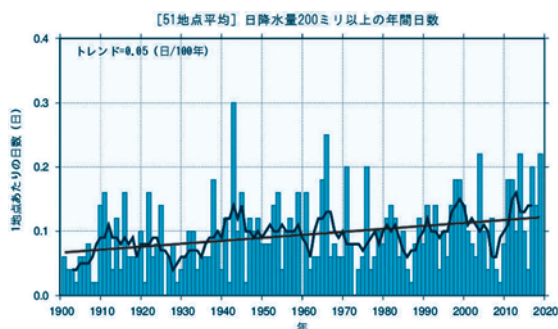
龍ヶ崎市危機管理課



## はじめに

令和二年七月三日から七月三一日にかけて、西日本から東日本の広い範囲にわたって長時間の大雨となり、球磨川沿いの洪水災害や各地で土砂災害が発生するなど、甚大な人的被害が発生しました。気象庁は、この一連の大雨を「令和二年七月豪雨」と名称を定めました。近年、毎年のように経験したことのないような異常気象的災害が発生しています。雨の降り方は、一日の降水量が二〇〇ミリ以上という大雨を観測した日数は、増減を繰り返しながらも長期的に見れば明確な増加傾向を示しているとしています（[下図](#)）。

このように、今後も頻発が予想される豪雨災害から命を守るためには、災害リスクのある地域にお住まいの住民



棒グラフ(棒)は1地点当たりの各年の日降水量200ミリ以上の年間日数。年ごと、あるいは青線(5年移動平均)で示される数年ごとの変動を繰り返しながらも、赤線で示されるように長期的に大雨の頻度は増加している。

図. 日降水量200ミリ以上の年間日数の変化  
(出典：気象庁「気象業務はいま 2020」)

一人ひとりが、自分自身の避難の方法を考え、整理し、有事の際に備えているような地域づくりを行うことが絶対に必要だと考えます。今回は、自分の逃げ方計画「マイ・タイムライン」に関する当市の取り組みについて紹介

し、今後の展開について記載していきたいと思います。

## マイタイムラインとは何か

「マイ・タイムライン」とは、「台風が発生」してから、「河川が氾濫」するまでに行う、備えや避難方法等を時系列でまとめた「自分の逃げ方」計画です。地震災害は前触れもなく突然襲ってきますが、風水害は、大雨が降ってから災害が発生するまでに時間があります。災害が発生するまでにいつ・どこで・どのような備えを行うべきかをあらかじめ整理しておくことで、災害発生前に落ち着いて避難行動を行うことができます。それを現実するのに、マイ・タイムラインは効果を十分に発揮すると考えます。

市の西側に小貝川、南側に利根川が

流れています。関東地方に台風が接近・通過すれば、大雨が河川流域に大量に降り注ぎ、上流から流れてくる水位は上昇を続け、洪水が発生すれば市南部の大半が、浸水することになります。

小貝川・利根川の洪水浸水想定区域の住民一人ひとりが、洪水時に逃げ遅れないように、次のようなマイ・タイムラインに関する取り組みを行い、逃げ遅れゼロの地域づくりを目指していきます。

## 龍ヶ崎市のマイ・タイムライン普及の取り組み

(1) マイ・タイムライン作成方法について

ここでは、マイ・タイムラインをどのように作っていくかを説明します。

当市では、マイ・タイムラインを作

成する際、鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会のマイ・タイムラインの検討ツール「逃げキッド」を使用しています。これは、大人も使える小中学生向けのたいへん分かりやすい便利なツールです。「逃げキッド」の自身は〈写真1〉のとおりです。あらかじめ用意されたシールを使い、行動する順番を考えながら並び替え、マイ・タイムラインを完成します。

## (2) マイ・タイムライン作成講座について

これまで住民向けにマイ・タイムライン作成講座を実施し、マイ・タイムラインの作成と地域住民への普及を呼びかけてきました。

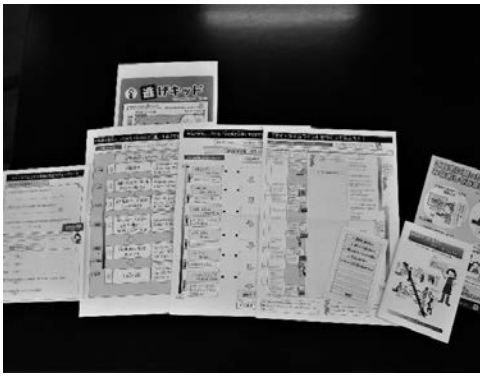


写真1. 「逃げキッド」の前身

### ① 洪水浸水想定区域対象地区向けのマイ・タイムライン作成講座

これまで小貝川・利根川の洪水浸水想定区域対象地区である川原代地区、北文間地区、大宮地区の住民向けにマイ・タイムライン作成講座を実施してきました。この時、マイ・タイムラインの存在の周知・作成の普及を期待して、地域の防災リーダーである自主防災組織の会長、地域コミュニティ協議会員を主な参加対象としてきました。講座の流れとしては、前半で講義を実施し、後半でハザードマップを用いた自分の住んでいる場所の洪水リスクの把握、チェックシートでの家庭状況(車、ペット、持病薬、避難支援の必要な人の有無等)の整理、マイ・タイムラインの作成等のワークショップを実施しました。参加者にとってマイ・タイムライン作成をより有意義なものにしてもらうために、次のような創意工夫を行いました。

#### (ア) 講義での専門家の導入

講義は、マイ・タイムライン作成のための基盤的事項です。洪水発生のカンズムや気象庁、国土交通省河川事務所等から発表される防災気象情報の流れ、市町村長の発令する避難情報の



写真2. グループワークを行う参加者

流れを分かりやすく説明する必要がある。そこで、気象の専門家である水戸地方気象台の予報官を講師に迎え、より分かりやすく防災気象情報の活用について説明してもらいました。

#### (イ) ワークショップでの

##### グループワークの導入

避難は一人ひとりが判断して避難することが原則です。しかしながら、住民の中には正常性のバイアスもあり、避難行動を取らない方がいるのも現実です。ワークショップでは、できるだけ同じ行政区ごとにグループ分けして地域の洪水リスクや備えに関する意見を交換を行うことで避難行動の必要性をより現実的に考えることができ、自身の充実したマイ・タイムラインを作成



写真3. 防災士連絡会による自治会向けマイ・タイムライン作成講座の様子

してもらったことができました(写真2)。

### ② 自治会・地域団体向けのマイ・タイムライン作成講座

#### ① 自治会・地域団体向けの

①で述べた洪水浸水想定区域対象地区へのマイ・タイムライン作成講座を実施後、自治会向けのマイ・タイムライン作成講座を実施し、更なる住民の方にマイ・タイムラインの作成を促していきました(写真3)。これまでは、市職員がマイ・タイムライン作成の指導を行っていましたが、この時は、マイ・タイムライン作成の指導者として龍ヶ崎市防災士連絡会(平成三〇年一月設立)に所属する防災士の皆様にご協力をいただき、マイ・タイムラインの普及とともにマイ・タイムライン作成の指導基盤の拡充を図りました。この取

り組みは、「マイ・タイムライン」を軸に防災・減災の活動を小貝川・利根川の河川流域の住民に根付かせるための極めて重要な施策と考えております。

## マイ・タイムライン普及の今後の展開

今後、更なる住民の方へマイ・タイムラインを普及し、逃げ遅れゼロを達成するために、次のような取り組みを実施していきたいと考えております。

### (1) マイ・タイムライン作成講座 未実施地区での講座の実施

小貝川・利根川の洪水浸水想定区域の地区は大きく分けて四地区（馴染地区・川原代地区・北文間地区・大宮地区）です。これまで、川原代地区、北文間地区、大宮地区で講座を実施していききましたが、馴染地区では令和二年九月現在未実施です。逃げ遅れゼロを実現するためには、全地区で講座を実施する必要があります。今後は未実施地区でも実施して住民の逃げ遅れゼロを目指していきます。

### (2) 土砂災害マイ・タイムライン 作成講座の実施

大雨による風水害は洪水だけではなく、

土砂災害もあります。

二〇一三年（平成二五年）十月の台風第二六号において十二か所のがけ崩れが発生しました。また、二〇一九年（令和元年）十月には低気圧の接近による集中豪雨により四箇所のがけ崩れが発生しています。

土砂災害マイ・タイムラインの作成は、洪水を想定したマイ・タイムラインを応用して作成できるため、土砂災害マイ・タイムライン作成講座の実施は、住民の命を守るための喫緊の課題としていきます。そこで、令和二年八月二九日（土）に土砂災害警戒区域に居住する住民や事業者を対象に、土砂災害発生のタイミングで自分自身の防災行動を考え、時系列的にまとめる「土砂災害マイ・タイムライン作成講座」を開催しました（写真4）。

この講座では、近年頻発する豪雨災害の特性や茨城県土砂災害警戒システム、市災害対策本部の行動等の講義を、市が委嘱を依頼している気象防災アドバイザーや水戸地方気象台・茨城県土木部河川課等の協力を得て行った後、参加者に実技形式で土砂災害マイ・タイムラインを作成していただきました。



写真4. 土砂災害マイ・タイムライン作成講座の様子

土砂災害マイ・タイムラインを作成する講座は茨城県内初めての取り組みであり、作成することで住民一人ひとりが恐ろしい土砂災害から確実に自分の身を守る行動がとれるようになることが期待されます。

今後は、参加者、関係防災団体の皆さんの意見を反映しながら、教材の充実を図り、龍ヶ崎市の土砂災害対応はもとより、茨城県下にも活用していただけるようにしたいと思います。また、小学校区・自治会単位の土砂災害マイ・タイムライン作成講座を実施し、更なる土砂災害マイ・タイムライン作成の普及を図りたいと思います。

## 結 言

水害では一人の犠牲者も出してはなりません。

住民の皆さん一人ひとりがマイ・タイムライン作成して自分の逃げ方を確立し、確実に避難行動を取れば逃げ遅れはゼロにできると思います。

しかしながら、その準備は現実にはなかなか進みません。普段の準備や早期の避難のためには、災害を自分ごとと捉えることが重要となりますが、過去に自分が住む場所で災害が起きても大丈夫だった人の場合、「正常性のバイアス」に陥る傾向にあります。近年の雨の降り方は変化しているため、正常性のバイアスに陥っている住民の方にも確実に避難行動を取っていただく必要があります。正常性のバイアスを払拭させるためには、市が住民一人ひとりとコミュニティを連携させることが非常に重要になると思います。未だ途上ではありますが、今後も逃げ遅れゼロの地域を目指して住民のマイ・タイムライン作成の支援に努めていきたいと思っております。

## 特集

# 気候変動により激甚化する水災害への対応